やつおもて

2022　No. 35（4月号）
編集発行：和田まちづくりセンター　協力：和田まちづくりセンター運営推進委員
電話：45－1918　E－mail：wada-k@ph-hamada.jp

～和田地区いろいろ見て歩く記～

は～るの～
うら～ら～の

す～みだ～がわ～

暖かくなり、お雛様の顔も浮かんでくる様になりました。今年は、きらめきホールにて、お雛様や長浜人形、地域の皆さんの「思い出のひなまつり」の写真を展示しています。ぜひ、お越しくださいね。（つぬ）

小学生人権標語テスト入選作品

やさしさは　心でとめず　伝えよう

ご挨拶
5年間お世話になりました

5年前、当時の和田地区自治会長や有志の方から要請を受け和田公民館長の大任を仰せつかりました。当初慣れない業務に戸惑いながらも、皆様方の暖かいご指導ご協力を賜り、何とか務める事ができましたことに、心より厚く感謝申し上げます。公民館は、少子高齢化となった今その役割は益々重要な位置づけとなっております。

和田地区は、旭町の中心部に位置しており令和3年度より、和田公民館は**和田まちづくりセンター**として活動を始めています。国や県が進めている、地域の小さな拠点として 又、地域の架け橋として、さらに発展することを願って挨拶に代えさせて頂きます。**有難うございました。“感謝”**

早田末男

★続いては和田地区に伝わる伝説コーナーです★

宇栗坪のぼたもち

文・絵　佐々岡健次

今回のお話しは…

木田の正蓮寺山門に夜になると水を飲みにでる龍の彫物がある。これを彫ったのは、長山喜一郎。彼が和尚につれられ寺に落ちつき、寺の上女中佐々岡ミネと一緒になったのは1845年、喜一郎が23才ミネが21才の時。この話は二人が結婚しばらく後の話しになる。

ミネの思い

二人は下和田の屋号（たばこ田）に新居を構える。結婚当初二人のは仲はそれはそれは人がうらやむ程で、特にミネが喜一郎に尽くす思いは水屋に立ち喜一郎の為に作る料理で分かるもの。「旨いものを食わせたい。そしていい仕事をさせたい…」という熱意に現れていた。

仕事に対する姿勢

喜一郎の技量は日に日に腕の冴えをみせ彼の名声は石見全土につたわりいたる所から仕事の依頼が来ていた。生来、真面目で、一本気な彼は力を抜く事を知らなかった。それはノミを持たない平生も。食事の時でさえ、築造の事で頭をいっぱいにした。

ミネの不満…

ミネが作った箱膳の前に座り込み、箸を休めることなく黙々と飯を口に運び、じっくり味わう事もなく口に掻きこんでは飲みこんでいく。当然以前のような和気あいあいの食事とはいかない。ミネは内心面白くなかった。何も云わないミネに安心しきったのか、いつしか喜一郎は木偶の棒になっていった。

喜一郎の態度に、ミネはある行動を起こします！
次回をお楽しみに

教子ウィムセットの海外便り14回・前編

子どもの歯科医院 IN アメリカ

文・写真 教子ウィムセット

皆さま、こんにちは。アメリカに来てから、たくさんの文化の違いを感じてきましたが、その中でも印象深い一つとして挙げられるのは、子ども専用の歯科医院だと言えます。

まず、息子たちは歯科医院へ行くことを怖がらず、全く嫌がりません。半年に一回の歯科検診は、遊びに行くかのように喜んで行きます。

その理由は、彼らは歯の生える一歳頃、あかちゃんの時から通い始めたので慣れていることと、歯科医院の中は子どもたちがリラックスして治療を受けられる雰囲気作りがしてあるからだと思います。

まず、天井には地域の子どもたちが描いた絵が飾ってあり、患者さんの座る椅子一台づつにテレビがついており、治療中に映画を観ることができます。

また、待ち時間にはゲームセンターにあるようなゲームで遊べますし、携帯で自分の写真を撮る、いわゆる『セルフィー』ができる空間まで用意されています。そして、犬が好きな子は、職員さんの愛犬と遊ぶこともできます。

おまけに、治療終了後はがんばったご褒美として、ガチャガチャのオモチャや風船などをもらえるのです。まさに子どもを飽きさせず、またココへ戻って来たい！と思わせる、楽しい場所が歯科医院なのです。

後編もお楽しみに！

中学校卒業　おめでとうございます！

3月15日（火）今年旭中学校を卒業される齋藤希琉君（本郷）に和田地区民生委員さんと和田まちセンより卒業お祝い品と和田地区まちづくり推進委員会（総務企画部）の皆さんからの色紙を送りました。「中学時代の1番の思い出は、3年の時の体育祭！高校では勉強を頑張りたいと思います」　頑張れ希琉君！応援しています！

〖和田地区の歴史コーナー〗

和田地区のお寺紹介（廃寺）④

【善通寺（本郷）】

本郷村と重富村との村堺、両村を一望できるに位置に堂床の地名がある。いつごろ創建されて、いつごろまであったのか全く不明であるが、ここに真言宗の寺があったと伝承されている。その寺を善通寺といっていたかもわかっていない。この寺が字坊ヶ迫に移され、さらに字善通寺に移されたのだという。山号を平常山という。善通寺という字地は水田を隔て諏訪神社と直線距離にして200メートルの位置にある畑地で旧土地台帳によと面積が1反2畝7歩ある。字観音堂から舗装道路を300メートル進めばここに達する。その道をさらに進めば坊ヶ迫に達する。字善通寺の近くに屋号寺迫という家がある

（旭町誌上巻より抜粋）